

1 居場所の未来を想像しよう ～こども食堂をきっかけに地域のつながりについて考える～

趣旨・現状

自宅・自宅以外の両方に居場所があると、こどもも大人も幸福度が高い傾向にあるとされる。また、放課後に過ごしている居場所が多ければ多いほどこどもの自尊感情が高い結果が出た。(和歌山県 R5子供の生活実態調査)
居場所のパターンは幅広い。(こども食堂、図書館、友人の家、校内居場所カフェ、公園など)また利用者のニーズも多種多様である。

和歌山県では、こども食堂が年々増加し、こども食堂増加率が全国1位となっている。(むすびえR7全国箇所数調査)
県内で「こども食堂に行ったことがある人」はまだ少ないが「こども食堂を聞いたことがある人」は多く、知名度をより高めるとともに利用者増と食堂の発展的継続を今後の課題とし、支援に取り組んでいく。そこで、県内こども食堂の現状を知り、こども食堂を含め地域の居場所の未来に向けた高校生目線の提言をいただきたい。



論点

- ①人口減少、過疎化、少子高齢化や経済的・社会的格差の拡がり、雇用形態の多様化、家族形態の多様化(単親家庭、核家族等)等の中で、地域の居場所としてのこども食堂の現状を調査・分析する。
例) こども食堂の運営面の困りごとは「資金・人材・食材の不足」(むすびえR7 こども食堂の実態・困りごと調査)
- ②地域の居場所としてのこども食堂が、県からの金銭的支援がなくても、持続可能で発展的な運営を行っていくには、県のどのような取組が必要か議論する。
- ③「居場所があることでこどもの幸福度が高まる」に関わって、地域共生社会としての未来のこどもの居場所について協議を深める。